

梅之木通信

【縄文住居をつくる会】

第14号 2019.12.23 発行

年内の作業は終了です どこまで完成したかな？

◆『縄文住居を作る会』の年末作業と中締め忘年会

今年最後の作業が12/20・21に行われました。参加者は黒田さん（熊造園）を含めて20日（金）が19名、21日（土）が13名と多数の参加者で作業能率も上がり、冬休み（1,2月）前の杉皮の屋根葺き（屋根全体の3/5程度？）と屋根の飛散防止策（枝で屋根を固定）を無事終了しました。此の時季風雪を心配しましたが、両日共晴天で富士山を始め南アルプスの山々、八ヶ岳連峰が遠望出来る日でした。

作業始めた頃、ここまで（現状写真参照）縄文住居を復元出来るとは、会員の誰もが思っていなかったと思いますね！4/22の説明会（37名が賛同）に始まり、5/16の石斧用石材採取で実質作業がスタートしました。その後、石斧作り、藤蔓採取・皮剥き、石斧での伐採等で疲労困憊・諦め感（？）も見られましたが、佐野さん（北杜市）から『完成期限無し』の励ましの言葉もあり、堅穴住居の穴掘り・4本柱の建立頃から俄然作業能率が上がり1年後完成が目に見えてきました。

これも毎回10人前後参加して頂いた会員の皆さんの努力・貢献のお蔭です。ここまでが作業報告です。

【余談】 12月の作業の休憩時、炉端で誰ともなく『年末には鍋を囲みたいね』との話が出て来て、12/20（12/21予備日）に鍋を囲み忘年会を行おうということになりました。当日大鍋（井ぶり50食？）を会員から借用、会員の皆さんから野菜・肉（鹿肉）の提供を頂き、一部購入品（茸類等）と合わせ大鍋に入れて、作業中間の休憩に合わせて料理し食しました。大きな鍋で作ったことと具材が多かったこともあり美味でした。鹿の肩ロースは、オリーブ（大蒜・生姜入）で焼き、味噌を付けて食しました。これも美味でした。作業の終了時には、鹿肉・白菜・葱を煮込み、2杯目を食し、満腹でした。これに味をしめて、12/21も作業終了後、肉・野菜ラーメンを食しました。作業を行った後の暖かい鍋料理は格別でした。

3月初作業を再開しますが、この季節は寒く鍋料理を希望する会員の声が多いですので、世話人の方で配慮して頂くと有難いですね！この縄文住居で食べると癖になりそうですね！（後藤 記）



大なべを囲み汁で忘年会？



鹿肉も焼いて味わいました



翌日は煮込みラーメン 鍋三昧の日々

◆「縄文式竪穴住居作りを省って」 溝口さんからの寄稿です。

縄文式竪穴住居作りに参加した動機は、当初あまり気のはしてなかったが、どんな作業をするのかという面白半分の軽い気持ちであった。

しかし、原始的作業を進めていく過程で、建築作業のみでなく縄文人の生活とはどういう実生活であったのかということに非常に興味を持つようになった。

まず第一に 10,000 年もの長期にわたって平和社会を維持できた理由は何なのか、第二に言語文字が未発達であったのに、どういう意思疎通をしたのか、第三に何を生き甲斐にしたのか、第四に幸福感という情感はあったのか等の疑問を抱くようになった。

各地（特に東北関東）の遺跡からは、土器、埴輪、土偶等多数の文化遺産が発見されているが、彼らのキーワードは「火」であったような気がする。

火に関わる漢字はいろいろあるが、炎・災・灰・炭・煙・灯・灸・炬・燧、等々 日常生活には「火」が一番重要であったのではないかと想像する。

土器作製にも火は必須で、埴輪土偶などは信仰の対象にしていたのではないと思われる。つまり当時は医者などは勿論いないわけなので、病に対しては祈りを捧げるしか方法はなかったであろう。現代のように医療関係に恵まれない中で、すぐるものは埴輪等を信仰の対象物として崇めるしかなかったのではないと思う。そのような厳しい環境の中でも、彼らは子供を特に生き甲斐の対象にしていたように思われる。

それは特に埴輪には女性の性器を象徴した形態が多いことから窺える。

現代社会は、IT 社会で一瞬にして情報が世界を駆け巡る高度情報化社会であり、犯罪や係争の絶えない社会である。食文化には恵まれながらも、少子高齢化、核家族現象といった現在の我々の住む社会と縄文時代の社会とは、一体どちらが幸福であるのか甚だ疑問を感じる。我々現代人は胸に手を当て反省してみる必要があろう。

発達した文明社会は、人間に本当の幸せをもたらしているのだろうか？

縄文社会こそ人間らしい真の幸福を体感していた社会であったような気がしてならない。縄文式竪穴住居づくりに参加して、そのような心境になった。

ちなみに、「火」には月経という意味もあるという。

▼杉皮が飛ばされないよう上から更に枝を組んで押さえます



皆の息がピッタリ合ってきました

▼ハケ岳下しの強風が心配ですが
3月までひと休み



▲屋根ふきは来年からの予定でしたが

杉皮を垂木・木舞に縛り付け作業を開始
智恵を出し合い新しい工法が生まれました

★ 来年3月から屋根ふき作業を再開する予定です。 皆さん、よい年をお迎えください！